第七講　2つの「なり」／「なり」の識別

2つの「なり」

基本形	接続	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
なり（断定・存在）		なら	なり に	なり	なる	なれ	なれ	形容動詞型
なり（伝聞・推定）		○	なり	なり	なる	なれ	○	ラ変型

〈「断定・存在」の「なり」の語源と見分け方〉

★語源＝「　　」＋あり

① 存在（～にある・～にいる）

※「　　」（方角）＋なり

② 断定（～である）

〈「伝聞・推定」の「なり」の語源と見分け方〉

★語源＝「　　」＋あり

① 伝聞（～とかいうそうだ）

※人から聞いた噂などの場合

② 推定（～ようだ）

※「音」に関わる言葉がある場合

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔例題一〕 次の傍線部の文法的意味を答えよ。

① 今年蔵司の小使にてまかり渡り候ひつるなり。

② 舟の内なる者ども、これが仕業を見るに、…

③ 人々あまた声して来なり。

④ 親の為思はぬなり。

問一 「中ならん物はさながら取れ」の「なら」と同じ意味で用いられているものとして、最も適当なものを次の中から選べ。

イ 心に思ふことを見るもの聞くものにつけて言ひ出だせるなり。（『古今和歌集』）

ロ この西なる家はなに人の住むぞ、問ひ聞きたりや。（『源氏物語』）

ハ 三条の宮に、親族（しぞく）なる人の衛門の命婦とてさぶらひけるたづねて文やりたれば、（『更級日記』）

ニ それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。（『竹取物語』）

ホ 都へと思ふをものの悲しきは帰らぬ人のあればなりけり　（『土佐日記』）

ヘ 物思へば雲居に見ゆる雁（かりがね）の耳に近くも聞こゆなるかな　（『和泉式部集』）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「なり」の識別

【識別対象】

1「　　　」の「なる」
2「　　　」ナリ活用の活用語尾
3「　　」・**存在の助動詞**「なり」
4「　　・　　」**の助動詞**「なり」

〈見分け方〉＝「　　」

1「　　」と訳せる＝ラ行四段活用**動詞**「なる」
「　」「　」「　」「　」「　　」に付くことが多い。

2「　　・　　」＋なり＝**形容動詞**ナリ活用の活用語尾
「　」「　」「　」に付くことが多い。

3「　　」か「　　形」＋なり＝**断定・存在の助動詞**「なり」

4「　　形」（ラ変型＝「　　形」）＋なり＝**伝聞・推定の助動詞**「なり」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　次の傍線の「なり」を、文法的に分類した組み合わせとして、最も適当なものを後の中から選べ。

はかなく なり(①)し人の領ずる所にて、…
ある聖の物に なり(②)てと聞きしを、…
さまざま思ひ出づることなど、言ふもなかなか なり(③)。
露消えし跡は野原と なり(④)はててありしにも似ず荒れはてにけり

A　①と②③④　　B　①②と③④　　C　①②③と④
D　①②④と③　　E　①③④と②

問三　次の傍線（1）・（2）の文法的な説明として、最も適当なものを後の中から選べ。＊（3）は不要。

「事悪しく なり(1)なんかし」と思ふに、…
命も延びぬべき様し給へる人 なり(2)。
聞き入れさせ給はざん なり(3)と承るを、…

A　ラ行四段動詞　　B　形容動詞語尾　　C　断定の助動詞
D　伝聞の助動詞　　E　推定の助動詞

（1）＝　　　　（2）＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（応用編）

★ラ変型に付く「なり」

（例）あるなり

★ラ変型「**撥音便**」に付く「なり」

（例）あ［なり］↓［　　　］

※下枠参照

（　　）［なり］↓「　　　」

※ 様子
～か［なり］

（例）①～③の中で仲間外れは？
① 渡らせ給ふべかなり。
② いふもおろかなり。
③ いと罪重かなり。

※ **な**［なり］
な［めり］

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★**四段動詞**に付く「なり」

音声動詞＋なり→［　　　］

（例）言ふ　泣く　鳴く　打つ　叩く　など

★「ばかり**なり**」「～ば**なり**」「かく**なり**」「さ**なり**」「しか**なり**」の「**なり**」＝「　　　」

★「**なり**けり」の「**なり**」＝「　　　」

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　**問一**の選択肢ニ・ホ（左記）の傍線部の意味をそれぞれ答えよ。

ニ　それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。（『竹取物語』）

ホ　都へと思ふをものの悲しきは帰らぬ人のあればなりけり　（『土佐日記』）

ニ＝　　　　ホ＝

問五　次の傍線部の「なり」の意味として、最も適切なものを次の中から選べ。（**問三**より）

聞き入れさせ給はざんなりと承るを、…

A　ラ行四段動詞

B　形容動詞語尾

C　断定の助動詞

D　伝聞の助動詞

E　推定の助動詞

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　次の二重傍線部の助動詞「なり」のうち、一つだけ他と意味の異なるものを選べ。

ア　祈るなり　　イ　所なり　　ウ　あなれ　　エ　来たるなり　　オ　親なり

問七　次の傍線部ａ・ｂと文法的に最も近いものを、後の中からそれぞれ一つ選べ。

この里にすみふりし飛騨人〈＝大工〉なり[a]。やや寒う なり[b]はべるには、…

1　かたはらいたければ書かぬなり。
2　「静まりぬなり。入りて、さらば、たばかれ」とのたまふ。
3　長押(なげし)の下(しも)に人々臥して答(いら)へすなり。
4　「出でずなりぬ」と聞こえたまへば、慰みて起きたまへり。
5　をかしき節もなくのみぞあなりし。

ａ＝　　　　ｂ＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問八　「かしこにはしはべるなるに、…」の傍線部と文法的に同じ意味の「なる」「なり」を含む和歌を、次の中から一つ選べ。

イ　厚氷くだきし跡の見ゆるなり山下清水くむ人やたれ
ロ　世の中のあはれなるには大空の雲も涙を惜しまざりけり
ハ　嘆けとて月やはものを思はするかこち顔なる我が涙かな
ニ　世にふれば又もこえけり鈴鹿山昔の今になるにやあるらん
ホ　あしびきの片山きぎすうちはぶき妻ごひすなり春のあけぼの

問九　次の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、それぞれ後の選択肢の中から選べ。

「仏、あはれとおぼしめしたりける なめり[A]」とぞ人言ふ なる[B]。

①　当然　②　伝聞　③　完了　④　回想
⑤　詠嘆　⑥　断定　⑦　婉曲　⑧　反実仮想

A＝　　　B＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問十　次の傍線「なり」と文法的意味・用法が同じものを、後の1〜5の中から一つ選べ。

船人の見るに、海のなかに浮きて漂ふ者あり。これを引き上げて見れば、縛られたる僧なり。船人、大きにあやしみて、「何人ぞ、かくは縛られたるは」と問へば、「われはしかじかの者なり。盗人にあひて縛られて落とし入れられたるなり」と答ふ。

（一部省略）

1　太政大臣になりたまふ
2　容体ほそやかにあてなりければ
3　おのづから宿世宿世に人となりたちぬれば
4　侍従の大納言の御女、なくなりたまひぬなり
5　またなくあはれなるものは、かかる所の秋なりけり

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第七講　2つの「なり」／「なり」の識別

①「若君、姫君とぞ聞こゆなる。」の傍線部の助動詞の意味として正しいものを、次の中から選べ。

ア　現在の推量　イ　過去の推量　ウ　適当　エ　可能
オ　断定　カ　伝聞推定　キ　完了　ケ　当然

②「しかしか、いと興ある事なり。」の傍線部の文法的意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　完了　イ　推定　ウ　断定　エ　伝聞　オ　尊敬

③次のア～オの波線のうち、伝聞の意味を表す助動詞を一つ選べ。

ア　須磨になりぬ。
イ　家どもの、物はかなげなるに、柴垣うちしつつ、…
ウ　旅人の舟どもうかがふなる白波の寄り来る舟など繋しなど…
エ　慌しく急ぎ過ぐるなるべし。
オ　緑の松の年深くて、浜風になびきなれたる枝に、…

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第七講　模範解答

〔例題一〕　①　断定　②　存在　③　（伝聞・）推定　④　断定

問一　ロ

問二　D

問三　（1）A　（2）C

問四　ニ　断定　ホ　断定

問五　D

問六　ウ

問七　a　1　b　4

問八　ホ

問九　A　⑥　B　②

問十　5

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第七講　2つの「なり」／「なり」の識別

〔解説〕

① 「なる」の上が「聞こゆ」。**「聞こゆ」**は**ヤ行下二段**活用動詞なので、**終止形**である。よって、正解はカ。

② 「なり」の上が「事」＝**体言**。よって、正解はウ。

③ 伝聞の「なり」ということは、上が**終止形**（ラ変型＝連体形）になっているものを探す。そうすると、ウ「うかがふ」が四段活用で、見た目だけでは終止形か連体形かは不明であるが、他の選択肢に終止形が明らかにないため、ウが正解になるのがわかる。もちろん文脈判断をしなければいけない時もあるが、いかに早く正解を出すかがポイントなので、**焦って文脈判断をする前にまずは他の選択肢を確認してみる**ことも大事。ちなみに、アは動詞、イは「はかなげなり」で一語の形容動詞、エは「過ぐる」が「過ぐ」の連体形で、断定。オは、「よれよれになる」という意味の動詞「萎る（なる）」。

〔解答〕

① カ　② ウ　③ ウ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。